

○夏休みでの成長

来週の木曜日から夏休みに入ります。夏休みの過ごし方について、家族での話し合いは進みましたでしょうか。各家庭の環境とお子様の個性に合わせて計画を立てていただきたいと思います。

例えば、「朝食を終えたらすぐに宿題をする」とか、「メディアの時間を2時間以内に作る」等、毎日確認することができて、それほど難しくもない目標を立てるとお子様も意欲をもって取り組むことができるでしょう。

気を付けたいのは、親が計画や目標を決めるのではなく、お子様自身が考えて自分で決めるということです。もしも、お子様が「親の希望をかなえるための計画だ」と感じた場合、意欲が下がり、達成が困難になります。お子様が、自主的に計画を立て目標選びをすることにより、意欲を引き出し、責任感を育てることができます。

計画を立てたら、次は見守りましょう。目標を把握して承認をしていきます。「よくできたね。」「がんばっているね。」等の声掛けが継続する力となります。このようなことをせず、できなくなった時に気がついて、「どうしてできないの」「怠けたらだめだよ」といった声掛けをするのは逆効果です。

しかし、長い夏休みですから、全てが計画通りにいくとは限りません。そんな時に大切なのは叱ることではなく、お子様の気持ちに寄り添って励ますことです。「メディアはつつい見すぎちゃうよね。どうやったら止められるかな？」お子様に気持ちを伝えた上で、最終的な意思決定は本人に任せましょう。親が決めたことよりも、自分で決めたことの方が「守ろう」という気持ちが強くなります。

夏休みは、お子様が成長する大切な機会です。「うちの人が一緒に計画を立ててくれた」「自分で立てた計画を守ることができた」という経験は、「やればできる」という自己肯定感を高めます。

○退屈を経験することも大切

夏休みは、お子様のためにと、海や山へと各種イベントをたくさん計画される方もみえると思います。この機会にいろいろな経験をさせなければと考えるかもしれませんが、次のように考える心理学者もあるそうです。

「子どもは夏休みに退屈であるべき、その方が健全に成長できる」

夏休みをもてあそばないように、いろんな体験をさせたい、いろんなことを学ばせたいと思って、つつい欲張ってしまう親たちの過剰なサポートは、かえって子どものためにならない。

心理学者リン・フライ博士は、「親としての役目とは、子どもたちが社会の中で自分の居場所を見つけられるような準備をさせることです。『大人になる』ということは、『自分自身のスケジュールをコントロールして、幸せに感じられるような余暇の時間で埋め尽くせるようになる』、ということなのです」と述べています。

精神分析学者アダム・フィリップス氏は、「退屈する能力は、子どもの成長の成果である」と述べています。フィリップス氏によると、大人は子どもにさまざまなことに興味を持ってもらいたいと考えるあまり、興味があるものを探すための時間を軽視する傾向にありがちですが、興味のあることを自分で探すために、退屈の過程に時間を費やすことが不可欠だとのこと。

集団生活をしている学校では経験できないことです。退屈を経験するからこそ、自分の行動について考えることができるのではないのでしょうか。これも夏休みならではの「学び」だと思います。



ホームページ更新しました	来週の予定				
	月	日	曜	時間	行事等
○5年野外活動説明会	7	18	月		海の日
		19	火	14:00	通学団会、給食終了 一斉下校
		20	水	10:45	1学期終業式、通知表配付 一斉下校
○ふれあいタイム4年企画	8	1	月	10:30	出校日 一斉下校
		22	月	10:30	出校日 一斉下校

子どもたちの活動の様子は、本校ホームページをご覧ください。

十四山東部小学校

検索

または

